

事業報告

活動名	日本技術士会東北本部岩手県支部 2021年新春講演会 『気候変動 ～地球温暖化による影響～』 (シリーズ岩手を知る (第20回))
主催	公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部
日時	2021年2月6日(土) 15:00~16:30
場所	エスポワールいわて(盛岡市中央通1-1-38)
参加人数等	参加者33名 (技術士:33名)

活動内容

【講師】 蒔苗 仁 氏

気象庁盛岡地方気象台 土砂災害気象官

「気候変動～地球温暖化による影響～」というタイトルで、気候変動について「世界から」「日本から」「岩手から」の視点でご講演いただいた。

地球温暖化により、短期的な豪雨(時間50mm以上)や豪雪は増加する傾向にあるという。岩手県では、令和元年の台風19号、平成28年の台風10号、平成25年の大雨による災害が記憶に新しい。これらの災害も、短時間(3~4時間)で集中的な豪雨によることが特徴的である。また、気象庁では最新のシミュレーション結果により、温暖化が起こった場合大雨の発生確率が起こらなかった場合と比べて増加すると発表している。

気候変動は様々な要因により起こるが、人為的なものでは人間活動による二酸化炭素などの温室効果気体の増加、エアロゾルの増加、森林破壊などがあげられる。地球温暖化は、その中でも大気や海洋の平均気温が長期的に上昇するもので、この100年で世界の平均気温は約0.74℃上昇しており、急激に温度上昇が起こっている。

地球温暖化により、世界では海面水位の上昇、生態系への影響、海洋の酸性化による海洋生態系への影響が起こっており、岩手県でも、年平均気温が上昇し、特に冬や春が温かくなっている。高松の池では以前はスケートが実施されていたが、現在ではスポーツ利用ができるほど表面に氷が張ることはない。また、リンゴの色付が悪くなるなどの影響もある。

IPCCでは4つの代表的濃度経路シナリオを用いて予測を実施しており、パリ協定ではRCP2.6というシナリオに基づき平均気温の上昇を2℃以内に収めることを目標にしている。人類が何も対策をしなければ、岩手県は平均気温が100年で4.6℃上昇し、現在の奈良県くらいの平均気温となる。また、猛暑日の増加、無降水日の増加、激しい雨の発生の増加などが懸念される。

地球温暖化問題は、豪雨の増加など肌で感じている部分もあったが、世界的な研究成果やパリ協定など取組について様々な視点からご講演いただき、非常に学ぶことが大きかった。

様々な部門がある技術士会としても、各分野での知見を集結し、温室効果ガスの削減に取り組む必要があると改めて感じた講演会であった。

(記: 森 千夏)



新型コロナウイルス感染症防止対策検温・消毒の実施



講師 蒔苗 仁 氏



会場の様子